

# 平成31年度 予算のお知らせ

## 健康保険

### 経常収支で約5億7千万円の大幅な赤字予算となりました

#### ● 予算編成の背景

日本は、高齢化率（65歳以上の割合）が総人口の21%を占める超高齢社会に突入しており、団塊の世代が75歳以上になる2025年には高齢化率は約30%に達すると推計されています。高齢化の進展や医療技術の進歩により、平成28年度の国民医療費は42.1兆円となり、うち65歳以上の医療費は25兆円を超えている状況です。

高齢者の医療費は、高齢者本人の保険料と公費だけでは賄うことができないため、現役世代がその費用の一部を負担しています。しかしながら、現在、義務的経費（高齢者医療への納付金と保険給付費を合わせた額）に占める納付金の割合は、健保組合全体の平均で45%を超え、過重な負担を強いられる構造が続いています。今後、団塊世代の高齢化が進めばより重い負担となることは確実です。

現役世代の負担を軽減し、将来にわたり、国民皆保険制度を維持するためには、高齢者医療費の負担構造改革等の早期実現が求められます。

#### ● 予算の概要

当健保組合の平成31年度予算は、総額56億

2,160万円、実質的な収支状況を示す経常収支で5億7,417万円の赤字を計上する非常に厳しい編成となりました。

主な収入は、皆さまと事業主に納めていただく保険料で、48億4,914万円を見込んでいます。一方、主な支出は、皆さまの医療費に充てられる保険給付費25億1,434万円（前年度比4,369万円増）と、高齢者医療を支えるために高齢者医療制度へ支払う納付金24億3,947万円（前年比4,563万円増）となる見込みです。これら2つの支出だけで保険料を超えてしまう見通しです。収入の不足分は、前年度決算からの繰越金1億5,000万円および別途積立金等からの繰入金5億481万円で補填することとしました。

当健保組合では、引き続き事務経費の節減に努めるとともに、医療費適正化のため被扶養者の資格確認や医療機関等からの請求のチェック強化、ジェネリック医薬品の使用促進などを推進してまいります。また、第2期データヘルス計画に基づいて、皆さま一人ひとりの健康に役立つ効果的な保健事業を実施し、中長期的な医療費の節減に努めてまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

### 介護保険

健保組合では、40～64歳の被保険者（介護保険第2号被保険者）から介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しております。

2019年度は、介護納付金4億8,231万円に対し、介護保険収入は4億6,586万円となる見込みです。収入の不足分は繰入金3,000万円で補填します。

#### 収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	465,856	97,053
繰入金	30,000	6,250
国庫補助金受入	1	-
雑収入	2	-
合計	495,859	103,304

#### 支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	482,305	100,480
介護保険料還付金	1,000	208
積立金	2,554	532
予備費	10,000	2,083
合計	495,859	103,304

## 平成31年度 収入支出予算総額 56億2,160万2千円

※（ ）内は「被保険者1人当たり額」

